



子どもの心の根っこ育てるために

1学期も早折り返しとなった6月。新緑はさらに深みを増し、多様な緑色を表現しています。山藍摺^{やまあいずり}、花萌葱^{はなもえぎ}、青漆^{せいしつ}と聞くと、何を想像しますか？これは緑に分類される色の名前です。大和言葉で表現される色の種類は実に多様です。

校長室では、この緑に異変が起きました。昨年度の春から夏にかけてぐんぐんつるを伸ばしていたポトスが、秋の終わりからすっかり元気をなくし、葉を落とし始めたのです。私は、水のやりすぎによる根腐れではないかと思い、土を替えるため鉢から根を出してみました。すると、びっしり伸びた根がギュウギュウに絡まり合っていたのです。根腐れではなく、根が伸びすぎたために土から十分な栄養がとれなくなったようでした。そこでポトスを二つに株分けし、少し大きめの鉢に入れました。冬の間、ポトスは全く元気がなく、枯れてしまっても仕方のないような状態でした。もう駄目なのだろうと半ば諦めかけていましたが、4月を過ぎ5月になると葉は色を濃くし厚さを増し元気になってきたのです。



植物は根や土が大事とはよく言いますが、この緑の異変はまさにその証拠であると感じました。「けやき」第1号にも書きましたが、始業式、子ども達にタンポポの根を例に挙げ、「心の根を育てよう」と話しました。難しくても挑戦する心、嫌なことでも粘り強く頑張る心…心の根が育てば、きっと友達と仲良くできる、学習も運動もきっとできるようになると話しました。では、大人はどうすれば子どもの心の根を太く長く元気にしていけるのでしょうか。

植物の成長に必要な条件は水と栄養と日光です。では、根を丈夫に育てるのは…水と栄養を含んだ豊かな土です。子どもの心の根を育てるのは、土となる私達大人です。では、私達大人は豊かな子育てができるための十分な水や栄養はとれているのでしょうか。心を豊かにする水や栄養となるものは多様にあると思いますが、付け加えて頂きたいものに「ありがとう」という言葉があります。

ありがとうの言葉

先日、ある担任から「自分は子ども達に『すごいね』とは言わず、『ありがとう』と言う」と一人の保護者に話したところ、その方は急に涙を流され、「Aは、ありがとうという言葉が大好きなんです。」と

おっしゃられたという話を聞きました。「ありがとう。」は感謝の言葉です。それには、相手を認め敬う気持ちが込められていると思います。Aさんは、「ありがとう」と言われた時、自分が認められたという自己肯定感をもつことができるからその言葉が好きなのでしょう。

子どもが生まれた時、親が我が子に「生まれてきてくれてありがとう。」とよく語りかけます。それは、我が子の誕生の幸せに素直に感謝する気持ちの表れでしょう。それでは、家族の中で、「ありがとう」という言葉はよく言い交わされているのでしょうか。ご夫婦の間で、おじいちゃん、おばあちゃんとの間で。お母様は、ご家族から「ありがとう」と言われていますか？



「ありがとう」は漢字で「有り難う」と書きます。これは、有ることが難しいという意味で、「当たり前ではない」ということです。家庭生活での炊事や洗濯、掃除やゴミ出しなど当たり前だと思われる仕事は、実は家族のために誰かがやってくれる有難い仕事なのです。そんな仕事をしてくれる家族に対して「ありがとう」の言葉が日常的に言い交されるようになると、温かい空間が生まれ、子育てをする土としての大人の心が豊かになっていくのではないかと思います。

子育てを頑張っている保護者の皆さん、頑張っている自分を是非ほめてあげてください。そして頑張っている家族をほめ、感謝してあげて頂きたいと思います。それが、子どもの心の根を育てることに繋がっていくのではないかと思います。